



災害の記憶は、しだいに風化してしまう 今、話し合うことから始めよう いつか来る**大規模災害に屈しない**ために

取材を終えて

epilogue

「忘災」への対策

昨年、坂京区で実施された防災訓練にお邪魔した。この訓練では、地域の催し「お宝コンテスト」も同時開催。訓練・催しを企画した千澤利通さんに、その意図を聞いた。「区内の人口減少・高齢化が進み、こういった地域の行事や防災訓練への参加が、皆さん難しくなっています。主催する側としては、少しでも皆さんが参加しやすいよう工夫しないとけません。訓練と催しの同時開催は、参加者の負担軽減を狙ったもの。おかげさまで、多くの地区住民が参加してくれました。本当にありがたかったです」。

一人でも多くの人に参加してほしい、楽しみながら防災意識を高めたという主催者側の努力と工夫が垣間見える、坂京ならではの訓練だった。

* * *

8月11日の明け方、本町を襲った地震。今まで体験したことがない。すでに災害があったことすら忘れつつあるのではないだろうか。

家族防災会議取材した横山さん一家。勝次さんの言葉にもそのことが感じられた。「災害は忘れたころにやってくるって言いますよね。あれは本当なんだなあ」と実感しました。地震直後は危機感がありましたから、家で対策をしようと考えていましたが、日が経つにつれ、その気持ちも薄らいできました。今回の家族会議は一つのきっかけ。あらためて、家族みんなで備えをしようと思えます」。

大規模災害時、救援の手が届くまでには相当の時間がかかる。そのときになって「温かい食事が避難所に届かない」「給水車がさっぱりやってこない」などと言っても遅い。今こそ備えを始めたい。愛する人を、愛するわが家を、愛する古里を守るために。災害に屈することなく、立ち向かうために。

「守られる防災」から「自ら守る防災」へ。この特集をきっかけに家族で、地域で話し合うことを始めよう。あるとき味わった恐怖を、これからは学んだはずだ。住民一人一人の「忘災対策」こそが、大規模災害に屈しないための最大の備えとなることを。

終

地域防災訓練 12月6日回

想定：東海地震クラスの大地震発生

自主防災会を中心とした地震発生後の避難、消火、救護など一連の対応訓練を実施します。それぞれの地域特性を考慮した訓練により、防災活動・意識を高めることが目標です。大きな災害の発生時には、家屋や道路の被害のほかに、人的被害も発生すると予想されています。火災の危険や、ガス漏れ、電気・水道・電話が使えなくなることも考えられます。公的な防災機関は需要が一気に高まり、各地への到着が遅れるかもしれません。

地域防災訓練は、防災に関する知識・技術・心得などをみんなで学ぶ場。皆さんぜひ、地域の防災訓練に参加してください。

総務課地域支援室 ☎ (56) 2220



千澤利通さん (坂京)